



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2007

12月25日号

106
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

紛糾した臨時総会



副会長 齋藤 康雄

定款改定に伴う諸規定の改定を議題とした、第65回日本放射線技師会総会（臨時）が、東京の星陵会館で開催された。早めに東京駅に着いて時間もあったので、駅から日比谷公園を通り首相官邸の脇を抜けて会場まで歩いてみたが、初冬の東京は紅葉も盛りを過ぎたばかりで、まだまだ秋の風情だった。前回の定期総会から会場にしている星陵会館は、日比谷高校と隣接し国会議事堂や首相官邸にも近い。会場に着いて受付をすると、早々に諸規定案の一部変更が渡され、我々が懸念していた一部であるところの、「地区責任者の選任は会長が行う」が、「当該地区で選出する」になっている等、数カ所の変更があり会員の意向がいくらか反映された文言になっていた。

12時30分過ぎ、ほぼ定刻に開会が宣言された後、会長の挨拶があった。その中で突然「定款は22日に厚労省で認可された」との報告があり、あまりにも突然な話ではあったが、その時に間髪入れずに打ち合わせてあったかのように執行部席から拍手が起こった。ほとんどの代議員は何が起こったのかと一瞬きょんとしていた。そのことが、それでなくても荒れると囁かれていた本臨時総会に油を注ぐこととなり、それから先の総会の進行を左右するに足る重大な発言となった。

詳細は省くが、資格審査報告、総会運営委員会委員長からの諸報告の後、新定款の許可が確認されなければ総会にはならない等、次々と質問や意見が出て、開会は宣言されたものの、次第を進行できない状態に陥った。いずれも定款許可についての真意の質しであったが、監事も問われて「今ここで初めて聞いた」との答弁で、11月22日に許可されていたことが、総会前日の理事会でも議題にされていなかった。専務理事の発言によると、この件は先ほど電話で確認したとのことであった。ここでも話が食い違っていた。許可を受けていながら、なぜ今まで黙っていたのか疑問が残るところである。許可の真意や新旧定款の扱いなどで紛糾し、議長はなんとか登壇したものの、質問等の発言が止まず、執行部との不可解な答弁のやりとりで、記録には残らないが技師会運営の根幹に係わる内容の議論が暫し続いた。進行も大幅に遅れ、「議長権限で議事に入る。議論はその中でして欲しい」との宣言があり、総会役員が選任されて議事に入った。

定款は書面票決により賛成多数で可決されているので、今回の臨時総会は、事前に資料が出されていた会運営に係わる諸規定の改定が議題である。裁決の結果は、総会直前に出されてた一部変更を含め、全ての規程が賛成多数で原案通り可決したが、最後に緊急動議が出され、「新定款の許可が11月22日でなければ、本総会は無効とする」ことが採択された。その後の調査で、11月22日に定款変更許可証が発行されていることがわかり、その旨監事から連絡があった。

おそらく議事録に載らないであろうと思われる議事前のやりとりを中心に書いてみた。

今後は、新定款と改定諸規定に従い運営されていくわけであるが、改定の内容については事前に日本放射線技師会雑誌、Network Now等で知らされている通りである。今回の改定目的は、改正公益法人制度への対応であるが、便乗改定も否めなく懸念が残る。今までも、我々はその全てを否定しているわけではない。合理的なものは受け入れているし、むしろ積極的に協力しているものもある。要は不透明さと不可解さが事態を悪化させていると思えてならない。今後も是々非々で対応していく所存である。新定款の下では、日本放射線技師会と福島県放射線技師会の関係は主従ではなくなるし、支部関係でもない。福島県放射線技師会を運営しながら、日本放射線技師会の事業に参画していく形となる。改正法人法の下では、今まで以上に福島県放射線技師会の存在意義を求められるし、アピールもしなければならない。それを成し遂げるのは、会員一人一人の意識の高揚に他ならないと考える。

平成19年度 第2回理事会議事録

日 時 平成19年11月2日 午後4:00～
場 所 県立医大附属病院放射線部 カンファランス室
出席者 片倉会長、鈴木、斎藤副会長、斎藤、今野、八巻、
長川、古川、山田、白川、遊佐、新里、佐藤、吉田理事、
嶋田監事、伊藤事務局長 (議長:斎藤 記録:山田)

1) 報告

会長より今年度の会務報告があり、主な活動報告がされたが、各支部の健康まつりや、最近では原子力防災訓練等の活動が抜けているが、今後はホームページやメール等で知らせることで抜けのないように纏めたい。総会の議案にもなるので、特に予算執行を伴うものは抜けの無いようにしたいと述べられた。

佐藤よりADセミナーの会計報告がなされた。会議資料にある単位認定試験日に変更があり、平成20年3月2日から2月3日に変更になったので修正して頂きたい旨の報告。会場は医大で行う。

伊藤事務局長より県に提出する乳房撮影精度管理講習会会計報告があった。

報告のなかで、思う様に合格率が上がらないという結果をうけて、会長より事前講習の話があった。乳房班とは分けて、技師会有志でバックアップし合格率を上げたいとの話になった。

2) 平成19年度会長会議

全国会長会議内容と、12月2日に臨時総会があり、本県から4名出席する旨の報告があった。

地域の名称として、福島県は北関東ではなく、東北地域となる。今回改正のあった規定のなかで、役員選挙規定に問題ありと考える。地方理事の定数より理事会推薦が多い。又、地方責任者と地区会長が別になることも起こりうる。

会費納入方法は、日放と県技師会で別々になる。

今後は、まったく別々の団体に入っているという認識を持って貰うことになる。県技師会と日放技を全く別と考えれば、県技だけ日技だけという人が増えるのではないかという声が多くあがったが、県技だけでは不利という事は殆どないのではないかと、それより福島県技師会をもっとまとめ、大事にしたいという考えである。

伊藤事務局長より、今年度県総会の席で会費納入方法については、理事会に一任されているので、来年度分の日放技会費と県放射線技師会費についての会費納入は時期が異なり、別々に納入するように広報をしていく必要がある。

3) 北関東地域放射線技師会長と熊谷会長との懇談会

懇談会議事録を参照。

4) 公益法人に関する説明会について

現段階では金銭的なもの以外に何も決まっていない

状況なので、今後の方針としては、申請書の用紙ができあがってから協議を進めていきたい。

5) 次年度表彰者推薦など

伊藤事務局長から日本放射線技師会30年表彰者の確認をする。叙勲については、11月3日に浜通支部の根本さんが瑞宝双光章を受章される。来年の秋以降についてはまだ決まっていない。候補者がいたら推薦してもらいたい。

知事表彰についても候補者が決まっていないので、支部で推薦してもらいたい。20年表彰については各支部で把握して欲しい。

6) 講習会など

ADセミナー等は在宅学習になるので今年度の予定はない。

来年の8月30～31日に技術学会東北部会主催で乳房撮影ガイドライン・管理研修会を福島県で開催予定。医師会から乳房撮影研修会の申込があった場合は、県技師会としても一緒に開催する。参加者の数を増やすために、新受講者・再講習や更新該当者等に働きかけをするなどの対策が必要と思う。

7) セミナー、講習、行事動員の時の謝礼について

セミナーや講習等に、手伝いのみに出てくれる場合は旅費の他に、1日の場合は5,000円、半日の時は3,000円の謝礼をする。

8) その他

①会費未納者が大変多いので、納入するように各支部で働きかけをして欲しい。

②予算の執行状況について鈴木副会長が説明。

③会費免除について

以前の理事会の決議により70歳以上の県技師会会員については免除する事になっている。

④県技師会学術大会時の物品について

新しいソフトが出てくるとそれに対応するソフト、ハードを準備しなければならなくなるので、今後はパソコン持参でも対応出来るようにPC切替器の購入をする事に決定した。今後の県技師会学術大会の演題提出は動画を含まない場合は従来通りとし、発表に動画を含む場合は各自のPCを持ち込むことで来年度から対応したい。

⑤医療機器安全対策セミナー開催について

11月16日にビックパレットで改正薬事法対応のセミナーがある。内容は「機器の安全管理をどう進めればよいか」でパンフレットが届いているのでHPに載せて広報する。参加締め切りが迫っているので早めに申し込んで欲しい。

⑥合同委員会の資料があるので見ておくこと。

⑦日本放射線技師会学術大会(札幌)平成20年7月は事前登録等の割り当てはない。参加申し込みは直接日放技雑誌を見て各自行っていただきたい。

根本壽男氏、「瑞宝双光章」受章

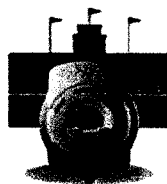
去る11月3日の秋の叙勲に於いて根本壽男氏（今村病院）が「瑞宝双光章」を受章しました。(社)福島県放射線技師会の推薦によるもので根本氏は昨年、鳥取県米子にて行われた日放技学術大会にて勤続50年の永年勤続表彰を受けられました。氏は東北大学技師学校卒業後、福島県厚生連に入会し高田・双葉・白河など厚生連の各病院に勤務され元白河厚生総合病院放射線科技師長として地域住民の健康管理や保険福祉の向上などに尽力されました。また職域技師会である県厚生連放射線技師会の会長として昭和54年から平成7年の間、6期12年に渡り後輩技師の育成に励まれました。現在も富岡町の今村病院にて現役技師として地域医療に貢献されています。



太田西ノ内病院 放射線部 MR室

SIGNA甲子園福島県大会で2年連続優勝!

SIGNA甲子園とは、GE社製のMR装置を使用し創意・工夫・実現性を反映した画像を競い合うイベントです。全国各地の使用者同士の交流・意見交換の場でもあります。年々、全国的な盛り上がりを見せ、参加する施設が増大しています。太田総合病院でも平成17年の第1回から参加出場しています。初年度はいきなり東北大会が開催され、振るい落とされてしまいました。残念ながら、それなりの評価をいただいたのですが全国大会出場は出来ませんでした。平成18年は、手関節の固定法を考案し、福島県大会で見事優勝しました。次の東北ブロックでは、準優勝に終わり全国大会出場にはまた涙を飲みました。その東北大会で優勝した青森県代表は、全国大会でも準優勝を飾りました。平成19年は、10月4日に同院でSIGNA甲子園福島県大会が開催されました。メンバーは、昨年の固定法から一歩進んで手関節の固定器具を考案しました。その結果、好評を頂き2年連続で福島県大会優勝が出来ました。今年から全国大会出場枠が変更になり、東



Signa 甲子園

北大会で1施設が北海道・東北ブロックで2施設となりました。結果は、北海道と青森県が全国大会へ進み、全国大会出場の夢は叶いませんでした。全国大会出場の壁は厚いですが、平成20年の今年こそはと闘志を燃やしています。MR室では、今後とも研究を重ねて患者様に還元出来るように努力すると張り切っています。

事務局からのお知らせ!

日本放射線技師会の会費と福島県放射線技師会の会費がそれぞれ別に納付となる見込みです。

最近の巻頭言や日放技のニュースなどでも書かれています。公益法人化にあたり形式上はそれぞれが独立した団体として行動することになります。密接な連携を持って活動することは今後も変わりはありませんが、会計上も独立が求められ、会費も別納となりました。

日本放射線技師会の会費の納付が前納制に変わります。つまり平成20年度の会費は平成20年3月31日までに納めなければなりません。また直納制へ変わりますので、各会員へ送られてくる振込用紙で直接日本放射線技師会へ送金することになります。

年度初めの混乱も予想されますので、今のうちからご準備ください。

福島県放射線技師会の会費は従来通り9月30日が納付期限となります。

会費の納付が二度手間になり、ご迷惑をおかけすることになりますが、ご協力の程よろしく申し上げます。

会 告

70歳以上会員の皆様へ

平成20年度以降に70歳以上になれる会員の皆様には、長年本会を支えて戴いたことに感謝し、福島県放射線技師会会費を免除いたします。

訃 報

名誉会員 川村 潤氏

平成19年8月5日逝去

(行年85歳)

8月7日告別式には、馬場理事が本会代表で弔辞を述べ、会津支部会員が送葬しました。





県南支部

レントゲン週間開催する (塙厚生病院)

レントゲン先生によってX線が発見されてから今年で110年を迎えました。日本放射線技師会では5年前よりX線発見の時期に合わせ、病院の中での放射線科の役割について一般の方に理解して頂くとともに、放射線が健康増進の為にいかに役立っているかを知ってもらう事を目的にレントゲン週間を開催しています。毎年一般公募して日本放射線技師会でポスターを作成していますが、今年の表題は「健康宣言してみませんか?～自分自身そして大切な人のために～」でした。当院でも3年前より当院で行っている放射線検査の紹介と画像の紹介・職業としての放射線技師を紹介した4枚のパネルを作成し通年で展示を行っています。またCTの症例画像をフィルムにし解説を加えて展示し、技師から説明を加える事によりさらに理解の手助けになるようにしました。またCT画像の3D動画を作成しPCで流しましたが、その滑らかな動きと分かり易さ、当院でのデータを利用して作成された事を知ると驚く方がたくさんおられました。今年度は11月5～22日まで行い、グループ病院で始まるPET検査についても説明を加えました。このような機会を利用して日々行っている自分達の作業内容をアピールして行く事は、職業としての放射線技師を知ってもらう絶好の機会であるし、さらに自分の健康に関心を持ってもらう一助になるのではないのでしょうか。(塙厚生病院 幕田)



会津支部

会津MRI研究会の開催

平成19年11月22日(木)、山鹿クリニックにおきまして、第26回会津MRI研究会が開催されました。

まずはじめに、バイエル薬品株式会社様より「新しいMRI造影剤について」という演題で、新しい肝臓撮像造影剤に関するご講演をいただきました。これまで肝臓を撮像する際に使用されてきたリゾピストと対比して、新薬EOB. プリモピストの薬剤特性や使用結果についての報告、EOB. プリモピストを使用した臨床画像症例の解説をいただき、従来品に比べると肝細胞癌の鑑別診断に有用であろうという結果を得ることが出来ました。

また、竹田総合病院様から「FLAIRにおける撮像条件の検討」という内容で発表をいただきました。急性期脳梗塞ガイドライン2007から、最適とされる撮像条件を用いた画像の比較結果と、そのフィルムに関してのフィルムディスカッションが行われ、ガイドラインで最適とさ

れている条件を自施設に応用していくにはどうすべきか、今の条件と比べて何が足りないのかなど、盛んに意見交換がなされ、とても意義深いディスカッションになりました。(森谷)

県北支部

【福島市マンモグラフィー併用検診読影会】の報告

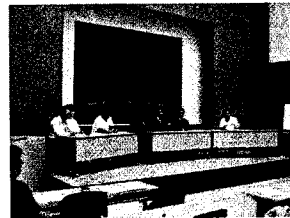
7月11日より毎週水曜日、福島市保健福祉センターにおいて開催されていた「福島市マンモグラフィー併用検診読影会」が12月5日まで合計22回行われ、今年度は終了しました。今年で3年目となるこの読影会は、福島市医師会より依頼を受け、市内12の検診施設で撮影されたフィルムを、撮影した技師及び読影会担当の技師が、画質やポジショニングなどについて検討し、マンモグラフィーの精度管理向上のために協力していくという主旨のもと行われていました。毎回10名以上の技師が参加しており、日頃より撮影技術の向上に真剣に取り組んでいるようでした。参加された皆様、大変にご苦様でした。(池田)

浜通支部

いわき地区画像研究会開催される

平成19年9月12日(水)いわき市立保健センター多目的ホールにおいて、今年度2回目のいわき地区画像研究会が開催されました。

今回は「CRの今後について」という演題で講師に富士フィルム、コニカミノルタ、コダックの各CR装置メーカーの担当者をお招きして行われました。



最初に各装置メーカーから最新のCR技術について説

明があり、その後、各装置メーカーのユーザー代表者とシンポジウム形式での話し合いがありました。事前に行われていたアンケート結果を基に、今まで使用してきて疑問に感じたこと、こうあるともっと良いのではないか、など様々な意見や要望がありました。また、今後、CR装置は無くなりFPDへ移行してしまうのかと不安視する声も聞かれました。各装置メーカーともにCRを無くすつもりはない、今後とも良い製品を開発するよう努力すると頼もしい回答を得て研究会は終了しました。(鈴木)

編集後記

早いものでもう師走である、振り返ると今年いろいろあったと実感する。日放技の会長に熊谷氏が就任してからは毎年激動の年の連続のようである。前会長時代は物事がもっとゆっくり進んでいたのに比べ対照的と思える。来年はどうなるのか?

八巻